

小便小僧

今は、亡き弟泰ちゃんの子供達が住む家が建っているが、電気店を開業して次男が生まれた頃は空地だった。その頃、長男が国立仙台病院に入院したのは、家の中は狭く暗く、子供や私達の、生活環境上の病気ではないかと思われた。

仙台には国民健康保険がなかった。前に住んでいた私達の故郷、円田村にはあった。入院費は全額かかる、私の父は心得ていて、早速長男を父の孫として移動、円田村の健康保険証を届けてくれた。

余談になるが、長男が小学校入学時になっても入学通知がない、市役所に問い合わせると、転籍しているからと言われ、慌てて旧円田村から復籍、原町小学校の入学式に間に合った。

約三ヶ月で全快退院したが、屋外でのびのびと遊ばせたいと思ひ。裏庭に小さな小屋を建てた。東側に平屋の菓子店があるだけで、一日中太陽が燦々と差し込み、子供達の健康上好ましくなった。殆ど解体の古材料で仕上げた。道路から離れているので安全だった。妻も私も農家育ちだから、庭の一部を畑に、新鮮な野菜が食卓に上った。天気の良い日には裏庭にゴザを敷き、遊ばせる。約二年後小屋を解体、泰ちゃんに約二十坪贈与、十三坪の家が建った。

それでも二十坪位空地があった。東側の隣との境界線手前に小さな池を作り、金魚を放し、瀬戸物の小便小僧を据えた。あの年は我慢出来ない位の猛暑だった。クーラーは高値の花、買えない。今は無いが、ウォータークーラーが、私の店で取り扱っていたメーカーが販売していたが、冷たい井戸水が必要だ、早速井戸掘り業者に依頼、六、七米掘ったら大量の湧水に恵ま

れた。夏だから水線が高いと言う。あとは、冬掘った方がよいと言うので中止、ポンプを取り付けウォータークーラーに送水した。

井戸水は十三。店から台所、座敷まで全館(?)冷房だ。ポンプは二百ワットの小型だから電気料は大した事はない。小便小僧にも配管、何時もオシッコの噴水をさせていた。クーラーで使用して、温度が少し上がるが清潔な排水は、店の前に出し放し、子供達は水遊びに夢中である。通りがかりの人が、店に入ってから、「水道が出っぱなしですよ」と注進に及ぶ人が多かった。

裏庭に砂場を作り、小型トラックで一台運んで貰った。近所の子供達の格好の遊び場所だった。そこで砂だらけになって遊び、店の前で水遊び、池では金魚を追いかけ、小便小僧の噴水に手をかざし、賑やかだった裏庭の光景が思い出される

そのウォータークーラーはこの店を建て替えるまで経済的で強力な冷風を私達に恵んでくれた。

今でもそのクーラーは妻の生家で働いている



平成十五年六月四日